

体の健康
心の健康を

塩味病院が
新しく変わります！

(仮称)

あさか相生病院

2025年6月 新規開院

医療・介護・福祉を通じて、
地域社会の方々と職員が一体となり、
心身共に豊かで健康に生きていくことが
我々の目標です。



医療法人 山柳会

市民の方が健康で、心豊かに生活するための方向性がわかるエリア作りを目指しました。



2025年6月の開院に向け塩味病院の新築移転工事は順調に進んでいます。

建築中の新病院は、4階建ての高層棟と2階建ての低層棟の二棟からなり、両棟は渡り廊下で結ばれます。その他、敷地内には迅速な薬の受取が出来るように調剤薬局も誘致します。

高層棟は、1階が外来診察フロアになります。従来の診療科目に加え、救急受入れ、感染症診察室なども充実させます。その他、事務室、相談室、調剤室などが入ります。

2階は、MRI、CTをはじめ使用される機器はより高機能な医療機器を配置し、一般患者様から人間ドックや健康診断の利用者様などの測定・検査フロアになります。

3階と4階は病棟になり、3階は回復期リハビリテーション病床、4階は一般病床と地域包括ケア病床になります。病床数も従来の77床から100床に増床します。

低層棟は病院の患者様がリハビリを行う機能回復訓練室と、一般の方も利用できる医療的要素を取り入れた運動施設・メディカルフィットネス(医療法42条施設)と水中運動施設を開設します。通常のフィットネスクラブとは違い医療連携した運動指導・栄養指導などで生活習慣病をはじめ疾病予防と改善を目指します。

また、様々な用途に使える多目的ホールも開設します。

1階には地域の方々の相談窓口として地域包括支援センターと居宅介護支援事業所が入ります。

くつろぎの空間として一般の方も利用して頂けるカフェテリアも設置します。



「新しい計画への想い」

医療法人山柳会・塩味病院理事長 塩味 正雄

◇病院の新築移転に関して◇

我々が生活を営む地域社会では、このようなことを実現できる社会資本はありません。

今回、塩味病院の新築移転に際し、病院の複合施設として42条施設、水中運動施設、(狭いながら)芸術を学べる多目的ホールなどを計画、建築中です。「体と心の健康づくり」という広範なテーマを実践するには山柳会だけでは不可能であり、そのため、数多くの専門機関や大学関係者のお力を借りながら進行中です。

◇コンセプトは「健康に集う」◇

新病院のコンセプトは「健康に集う」、副題は「体の健康 心の健康を」、理念は「市民の方が健康で、心豊かに生活するための方向性がわかるエリア作り」です。

新病院のプロジェクトは、単純に老朽化した病院を建て替えるだけにとどまらず、平均寿命が伸び続ける実情を踏まえ、地域住民の皆さんの健康や心豊かな生活を支えるエリア作りを抄出することで、地域の未来に貢献していこうとするものです。そのため、従来の枠組みを超えて、新しい機能や役割を加えることで、「健康寿命の伸延」「医療費の削減」にも繋げていこうとするものです。このため、今計画の成果が見えてくるのは、人材育成も深く関係するため開院後、更に3~4年はかかると思っています。

新しい計画は、大きく分けて3つのゾーンになります。1つは、病院を主体とする「医療ゾーン」、2つ目は「保健・予防医療・健康増進・文化教養ゾーン」、3つ目は「集いゾーン(調剤薬局・物品販売・カフェなど)」から成っています。前述のように、全てが出来上がるにはもう少し年月を要します。

◇医療ゾーンの充実◇

医療ゾーンは、現在の病院を移転すると同時に増床し、診療科目も増やします。医療機器も現状よりかなり高度化させています。病室は一般病床、地域包括病床、回復期病床の3区分になっています。また、コロナ流行以来の感染症の動向から、感染対策された陰圧室を新設しました。健診にも力を入れ、健診専用のスペースを拡充しています。歯科も増設しますが、これは口腔リハビリテーションが主体であり、嚥下障害の方のために必ず役立つと考えています。なお、将来的には訪問口腔リハビリテーションを行っていく予定です。

◇充実した施設の実現◇

予防医療・健康増進・文化教養ゾーンは、今回の計画の中心的役割を担っています。これだけ充実させた施設は埼玉県で初めてと考えています。42条施設、水中運動施設、多目的スペース、待合カフェなどのほか、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などが入った複合施設です。



(仮称) あさか相生病院 〒351-0023 埼玉県朝霞市溝沼 3-2-33 TEL 048-467-0016